

区分・種別	国宝(工芸品)		
名称	おおだち つけたりのだちこしらえ 大太刀 1口 無銘 伝豊後友行 附野太刀拵		
所在地	今治市大三島町宮浦		
所有者	大山祇神社	管理団体	
指定年月日	明治34年3月27日 国 昭和33年2月8日 国宝		
解説	<p>大太刀は、刃長180cm、反り5.4cm、元幅4.6cm、先幅3.3cm、鋒長10cm、茎長58.5cm、鑄造丸棟、非常に大きくて長い。</p> <p>鍛えは大板目流れ、刃文は互の目調の小乱刃である。区上6cmのところまで焼落ししている。表裏に樋先の下がった棒樋をほり、区上で丸留めにしている。</p> <p>茎は生ぶで長く、栗尻、鑿目は勝手下り、目釘穴は2個である。銘は刻していないが、南北朝時代の豊後国の刀工友行の作と鑑定されている。</p> <p>附属の拵を見ると、柄は革で包み敲塗り(石目地に黒漆塗り)し、鞘は黒漆塗りの薄革と飴色の革で二重に包み、渡巻のところはさらに黒革で菱に巻いている。鐔は木瓜形の練革を重ね黒漆をかけ、金銅の覆輪をかけてある。</p> <p>足金物と貴金とは本来つけていない。拵えの全長は275cmあまりある。</p> <p>大太刀、野太刀拵ともに14世紀鎌倉時代末期から南北朝時代の代表的作品といえるもので、『集古十種』にも載せられている。</p> <p>この太刀は、湊川合戦で楠正成を討って功をたてた伊予国の人、大森彦七の愛刀であったものである。</p> <p>文明2(1470)年、孫の大森直治が大山祇神社に田地3反を寄進しているが、その際、この太刀を添えたことを示す文書が残されている。</p>		

